

2025 年 11 月 20 日

各位

ヘリオス テクノ ホールディング株式会社

2026 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

当社は、2025 年 11 月 20 日（木）11 時より、ライブ配信にて機関投資家・アナリスト向け 2026 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたしました。

本資料は、同説明会での質疑応答について主な内容をまとめ、公表するものです。なお、記載内容につきましては、理解促進のために一部に加筆修正をしております。

【問 1】 今期の業績予想修正により、1 株当たりの配当も 45 円から 61 円に上方修正されている。この配当予想は、今後実際の業績着地によって変動するという認識でいいか。

【答】 当社の配当方針は、2024 年 11 月 5 日公表のとおり、2025 年 3 月期から 2027 年 3 月期の 3 会計年度においては、株主還元強化と自己資本充実とのバランスの観点から連結配当性向 100%を目標とし、当 3 会計年度については 1 株当たり年間配当金の下限を 35 円と定め、この金額を下回らないものとしている。この方針を踏まえて、2025 年 11 月 6 日に業績予想と配当予想の修正を公表している。

今後は通期業績予想の実現に向けて努めていく。

【問 2】 米中欧を中心に拡がる「関税」の影響や、今後の対応策をどのように考えているか？また関税の影響とあわせ従来から中国経済の減速が報道されているなか、中国関連ビジネスへの影響度を教えてほしい。

【答】 現時点で、関税等による直接的な業績への影響には及んでいないが、関税政策の長期化も想定し、今後もその動向を注視していく。

また、中国を中心とするアジア市場において、貿易拡大を見越した米中関税に備えた前倒し輸出の拡大がみられるものの、中国景気の低迷長期化や米中対立の状況等、依然として予断を許さない状況で推移していると認識している。しかしながら、当社

が製造する各種製品・装置は、液晶パネルの製造工程に不可欠であり、足元では当社ビジネスへの影響は軽微と考えている。

今後も、日中外交の動向にも注視していく。

【問3】M&Aについて投資の規模感や領域など、また手当する資金は現預金か借入など方針など話せるレベルで教えてほしい。

【答】当社グループのM&A戦略について、基本的なターゲットはものづくり企業である。当社のミッションである「高付加価値の製品・サービスの提供を通じて、人びとの暮らしを豊かにする」、これを実現できる新規事業を創出することによって第3の事業を確立し、事業ポートフォリオの拡大を目指していく。

資金の運用方針については、ROEを考慮したバランスシートを重要視しており、利益水準、借入によるレバレッジ等、各案件に応じてバランスシートを最適なものにすることが重要と考えている。

【問4】MLSランプの販売が上期好調、との説明があったが、業績修正の内容としてはMLSランプとコスト圧縮の効果ということでしょうか。またどの程度、寄与したか金額で教えてほしい。

【答】業績修正の背景としては様々な要因があるが、露光装置用光源ユニット用ランプ（MLSランプ）が引き続き計画を上回る需要があったことが主要因の一つである。寄与した金額については、ランプ事業のセグメント利益は前年同期比で2億4百万円の増益、グループ連結の販管費は、効率的な経費運営等により前年同期比で48百万円の減少となっている。

（※MLS（Multi-Lamp System）：露光装置用光源ユニット）

【問5】上期決算で一部検収が下期にズレたとの説明があったが、期末検収予定の案件が来期にずれる心配はないか。

【答】当社が製造した大型機械装置をエンドユーザー様の生産ラインの一部として納品するため、エンドユーザー様の事情により、前倒し、後ろ倒しを含め納期が変更にな

なるケースがある。当社はそのような点も考慮した上で、現時点での通期業績予想を開示している。

引き続き、通期業績予想の実現に向けて取り組んでいく。

【問6】部品納入から保守まで、各セグメント売り上げのフロー、ストック収入の比率はどの程度か教えてほしい。

【答】「フロー」はいわゆる装置販売、「ストック」は継続的な保守・メンテナンスを指すことを前提として、当社グループが提供する製造装置は大型なものもあり、「フロー」の初期販売が売上高に対して大きな割合を占めるものの、「ストック」においても、お客様のニーズを的確にとらえることにより、当社グループが販売した装置の改造、グレードアップ等についても、当社グループの極めて重要かつ主要なビジネスと考えている。

以上